

小学校3・4年生～

2020年3月 no.74

2020

よんでネット*

春号

発行口茅ヶ崎市立図書館／協力口茅ヶ崎図書館子どもの本の会



「いっぽんのきのえだ」

作 コンスタンス・アンダーソン 訳 千葉茂樹

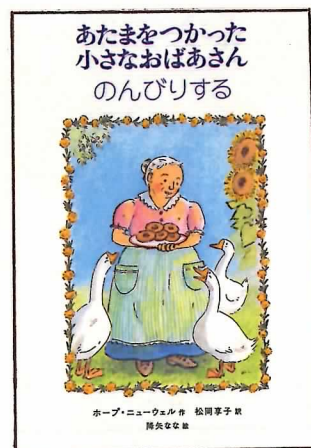
ただの1本の木の枝が、動物たちの道具になる。
アジアゾウは、木の枝をおりとして、うるさく
つきまとうハエをおいはらう。ゴリラは、つえとして
チンパンジーはスプーンとして木の枝を使う。
君ならどう使う？ ごっこあそびにも使えるし
絵をかくことだってできる。君だけの使い方も
考えてみて！

ほるぷ出版【E・絵本のコーナー】

「あたまをつかった小さなおばあさん」

ホープ・ニューウェル 作 松岡享子 訳 山脇百合子 画

小さなおばあさんは、あたらしいはねぶとんがほしいとおもいました。
でも、はねぶとんはたかいので、かわりにがちょうを12羽買いました。
「冬がきたらはねをむして、そのはねではねぶとんをつくらしましょう。
わたしはなんてあたまがいいんだろうね。」ところが…。小さなおばあさんが
じょうずにあたまをつかうおはなしが、いっぱいです。

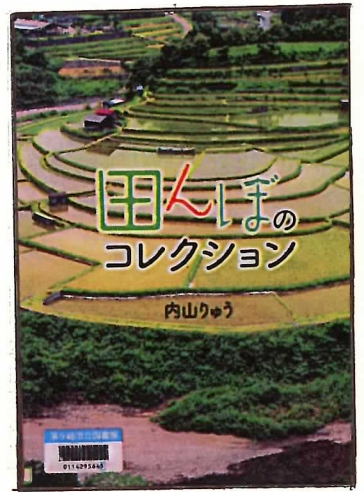


※「あたまをつかった
小さなおばあさん
がんばる」
「あたまをつかった
小さなおばあさん
のんびりする」
(降矢なな絵)
もあります！

福音館書店【933二】

「田んぼのコレクション」 内山 リゅう

田んぼはわたしたちが毎日食べるお米をつくる場所。
いえいえ、それだけではありません。田んぼは生きものの
ワンダーランド。カエルや虫がかくれんぼしてるよ。
昔から続くお祭りや行事は、田んぼから生まれたん
だて。日本で田んぼを作るようになって3000年。
田んぼは日本人にとって他とはちがう特別な場所。
さあ、田んぼの春・夏・秋・冬をみてみよう。



フレーベル館 [61ウ]



小峰書店 [913サ]

「おばあさんのひこうき」

作 = 佐藤さとる え = 村上勉

おばあさんは、あみもののめいじん。ある日、ちょうちよの
はねのまようと おなじまよりのあみものを あんで
みました。すると、そのあみものは空にうかぶではありませ
んか！ おばあさんは毛糸でひこうきをつくり、まごの
タツオがすむ町までしゃっぱつしました。おばあさん、
ぶじに、かえってこられるでしょうか？

「「いたいっ！」がうんだ大発明

ばんそうこう たんじょう ものがたり

バリー・ウィッテンシュタイン 文 クリス・スー 絵 こだまともこ 訳

けがをしたら、当たり前のように使っているばんそうこう。
どうやって生まれたのでしょうか？ 実は、今から100年
以上も前のこと、アメリカに住むアールさんとい
う人が、ぶきちよでけがの多い奥さんのために
作ったのが始まりなのです。
アールさんの小さな発明が、世界のみんなを助ける
大発明になったというお話。



光村教育図書

[E・絵本のコーナー]